

平成28年度市民参加型外部評価 外部評価委員及び外部評価モニターの評価と意見

7月30日(土)

あつぎ市民交流プラザ(アミュあつぎ)7階 ミュージックルーム1

No	対象事業	担当課	評価区分		評価結果 (委員5人)	評価結果 (モニター28人)	評価結果 (合計)	外部評価委員の主な意見	外部評価モニターの主な意見
1	防災備蓄品整備 事業費	危機管理課	要改善	実施内容・ 実施方法	1	9	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚木市の最大避難者数の算出方法を再度検討していただきたい。</li> <li>・市民にいきわたる備蓄食を用意していただきたい。</li> <li>・物資の入替えについては、委託など効率化をされているようだが、物資の購入量が増えつづけていくことが前提となることに疑問を感じた。</li> <li>・備蓄について、中期的な計画を立て、モノ(ハード)とそれを有効活用する人・組織(ソフト)をより有機的に組み合わせる工夫をしていただきたい。</li> <li>・他の自治体との連携の強化も求められる。</li> <li>・備蓄食料は被災市民の3日分で十分か疑問。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間との連携の強化が必要である。</li> <li>・地域で連携するため、近隣の自治体(海老名市等)の備蓄品も把握すべき。</li> <li>・共助が求められる中、市民が備蓄品等の情報を十分に把握しているとは言い難いのではないかと。</li> <li>・厚木市全体が被災した場合を想定すると、外部からの援助が得られるまでの日数を考えると、自助・共助・公助で3日分というのが妥当な数字とは思われない。</li> <li>・必要に応じた予算が増加されているようなので、予算確保の進め方は今のままでよいと思う。何を、いつ、どこに備蓄するかを決める妥当な方法を更に検討していくことが大切であると思う。</li> <li>・避難者数を厚木独自で算出していただきたい。大変かと思うが、1人でも犠牲者を減らすためには、必要だと思う。</li> </ul>
				拡大	3	6	9		
				縮小	0	0	0		
			現行どおり		1	13	14		
			廃止		0	0	0		
2	バス利用促進等 総合対策事業補助金	都市計画課	要改善	実施内容・ 実施方法	4	6	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に対するバス利用促進を向上させる調査や別の見方をしてほしい。</li> <li>・市として望ましい方向に補助金を活用するためには、特定の路線をノンステップバスに固定することなどをバス会社に求めてもよいのではないかと。</li> <li>・補助する台数の増加、上屋・ベンチの設置増加を通して、市の「バス利用促進」方針を市民に印象付け、市の個性にしてもよいと思う。</li> <li>・実施に関しては、理解できるが、実際の利用促進につながる事業にする努力が必要と思われる。</li> <li>・ノンステップバス、上屋の導入は進めてほしいが、企業誘致や道路交通網の見直しに基づいた事業にすべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業名と内容がそぐわない感があるので、バス利用環境向上等事業というように変更してはどうか。事業者の企業努力も必要だが、公共性を重視して今後もこの事業は必要だと思う。</li> <li>・ノンステップバスについては事業の主旨、市民の要望を踏まえ、現行の導入スピードを速める必要がある。上屋については、利用者から待合環境の向上につながる具体的意見・アイデア等を募集し、道路ごとの管理者の考え方と調整し、施策化することが必要と考える。</li> <li>・上屋の設置補助はやめるべき。日差しを防ぐには、時間的に限定されるし、雨や風を防ぐのに役立っているとは思えない。ベンチの設置の方が良い。</li> <li>・利用促進に向けた他の施策(交通環境の改善等)に費用を振り替えた方が良い。</li> </ul>
				拡大	1	5	6		
				縮小	0	3	3		
			現行どおり		0	12	12		
			廃止		0	2	2		
3	里地里山保全等 促進事業費	環境政策課	要改善	実施内容・ 実施方法	2	7	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里地里山の活動団体の数も増加していることから現状維持をしていただきたい。また、広報についても十分行っていただきたい。</li> <li>・団体の増加、参加者の増加につながる方法を考える必要がある。市内のとりわけ里地里山の近くに住む人の関心をどのように高めるかが課題である。</li> <li>・市民の連携・協働という目標をより前面に出し、コミュニティづくりの一環として、参加する市民の裾野を広げることを期待する。</li> <li>・まだまだ市民の認識が低いので、広報活動を活発にし、もっと市街地の人も参加できるような活動になればと思う。</li> <li>・ボランティア活動として拡大させることで、予算の拡大の必要がなくなると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報・回覧チラシ等で周知徹底を図ってもらいたい。里地里山はその周辺の市民のものではなく、市全体のものであるという意識を、広く市民に共有してもらいたい。</li> <li>・保育園や幼稚園、小学校などとも協力していくことが市民への周知やボランティアの増加につながるのではないかと。</li> <li>・厚木の生活・自然環境を守る運動にして、多様なステークホルダーとの連携も強めながら持続的に取り組むことが適切と考えられる。</li> <li>・県から補助金を受けている団体には交付金を交付すべきではない。市自体の活動はないのか。</li> <li>・重要な意義・意味のある大切な活動だと思う。ただし、里地里山の所有者の自主的な保全意欲をそがない程度の活動範囲・規模に収めるべきかとも考える。</li> </ul>
				拡大	1	8	9		
				縮小	0	2	2		
			現行どおり		2	11	13		
			廃止		0	0	0		
4	年末年始公共施設 の開放	行政経営課	要改善	実施内容・ 実施方法	0	7	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用状況を見て有料化を含めて事業の縮小を考えていくべきだと思う。</li> <li>・テニスコート以外は開放しなくてもよいのではないかと。また、テニスコートも閉じてもよいのではないかと。</li> <li>・(将来的な廃止も視野にいれながら)ニーズの低い公共施設の開放から廃止していく。年末年始は、外での活動よりも家族と過ごす、仕事もできる限りしない、というライフスタイルの変更にもつなげる。</li> <li>・対象施設をしぼり、有料施設は無料ではなく割引などの対策を取った方がよいと考える。</li> <li>・年末年始に利用できなくても特に大きな問題はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画一的に無料化や6日間の継続開放は必要ではないと思う。ニーズに対して有料化や開放日を選ぶべき。</li> <li>・年末年始に厚木に戻ってくる人も多いと思うので、年末年始の開放は必要であると思う。</li> <li>・利用率の高いものを残し、低いものは漸次中止する等、税金の有効活用を図ってほしい。</li> <li>・有料施設の無料化を廃止すべき。民間では年末年始は特別料金になる所もあるので、理解は得られると思う。他の施設については、利用者の意見を聞きつつ、判断していけばよいと思う。</li> <li>・年末年始に体育館やグラウンドが使えるのはよいと思う。</li> <li>・防犯面に対して不安のある環境だと感じた。もっと多くの市民に効果のある税金の使い方をしてほしい。一つの考え方としてその期間にメンテナンスを実施したらよいのではと思う。</li> </ul>
				拡大	0	2	2		
				縮小	4	10	14		
			現行どおり		0	4	4		
			廃止		1	5	6		

7月31日(日)  
あつぎ市民交流プラザ(アミュあつぎ)7階 ミュージックルーム1

No	対象事業	担当課	評価区分		評価結果 (委員4人)	評価結果 (モニター28人)	評価結果 (合計)	外部評価委員の意見	外部評価モニターの主な意見
5	地域児童クラブ育成支援事業補助金	こども育成課	要改善	実施内容・実施方法	1	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では、民間の団体の設立を促すために基準を緩和する状況にはないと思うが、他市で活動実績がある等、関心を持つ団体についても情報提供等支援が必要であると思う。そして、毎年1,2団体程度増えていくとよい。</li> <li>・H28年度は事業の拡充の方向にあり、その方向で「現行どおり」でよいと思う。今後、民間企業の参入などにより児童の放課後サービスの多様化を図るとよいと思う。</li> <li>・民間の施設を利用しやすいよう、補助を増やし、より活発に活動できるような環境づくりに役立ててほしい。今後の対象団体の増加にも期待したい。</li> <li>・民間クラブの開設手続き(条件)の緩和をしてほしい(小規模クラブ:1~10人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金を出すだけの事業ではなく、民間を育てる発想、事業が必要である。</li> <li>・民間の児童クラブをもっと増やすための施策が必要ではないか。</li> <li>・民間の児童クラブが更に増えて待機児童が減るように、もう少し予算を増やしてもよいと感じる。</li> <li>・空き教室のある学校もあると思うので、小学校を利用して、民間が運営する児童クラブがあっても良いのではないかと考える。</li> <li>・現行どおりで可と考える。</li> <li>・民間の児童クラブへ誘導する働きがもっとあっても良い。</li> </ul>
				拡大	2	13	15		
				縮小	0	0	0		
			現行どおり		1	12	13		
			廃止		0	0	0		
6	輝き厚木塾開設事業費	文化生涯学習課	要改善	実施内容・実施方法	3	11	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講料は講師の方の収入となっていることもあり、リーダー会に自立的に運営してもらうことが望ましい。広報への掲載は、冊子もあるので必要とは思えない。</li> <li>・発足から10年を迎え、この事業は曲がり角にきていると思う。リーダー会が重要な交流の場になっているのであれば、自立化させる方向で、行政はこの事業から手を引くことを考えてみてはどうか。他の社会教育などの差異化を考えていただきたい。</li> <li>・リーダーが増えてきているので、どんどん人を増やすのではなく、より良いリーダーになるようなステップアップ講座などを設けるなどをしてほしいのではないかと考える。今後も市民が輝ける場を提供していただきたい。</li> <li>・市民の自主性を重んじる事業とすることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政は少しずつ手を引き、リーダー会の自主性を育てる仕組みが必要である。</li> <li>・市民のニーズを確認し、ニーズにあった講座の講師を育成することが必要ではないか。</li> <li>・良い事業だと思うが、広報費や人件費はもう少し削減できると感じた。</li> <li>・自主活動にして予算を減額すべきである。</li> <li>・事業予算も少なく、受講者が増えていることもあり、このまま継続でよいと思う。</li> <li>・一日の時間をどのように過ごせばよいかと考えている人も多いと思われる中で、このように手軽に色々なことを学べる機会があることはよい事だと思う。</li> </ul>
				拡大	0	2	2		
				縮小	0	2	2		
			現行どおり		1	11	12		
			廃止		0	2	2		
7	厚木市中心市街地商店街空店舗対策事業補助金	商業にぎわい課	要改善	実施内容・実施方法	2	18	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成を受けて開業した店舗が、資金だけでなく経営面でも他市では得られない支援を得られる必要があると思う。ここ5年を勝負する時期と位置付けて力を入れてみてはどうか。</li> <li>・現在の事業は続けつつ、商店街のスペースを使いたいINPOなどの別のニーズを掘りおこし、新しい補助事業を付け加えてもよいのではないかと考える。</li> <li>・空き店舗の減少につながっているため、現状維持でよいと思う。ただし、今後は、まちづくりなどにも積極的に携わり、広域での空き店舗解消につながってほしいと思う。</li> <li>・現場の状況から中長期的な施策を検討すべき。</li> <li>・耐震強化等、不動産事業者への補助も必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間の営業を補助の条件にするのは少し厳しいのではないかと。補助した144店舗のうち、4分の1にあたる38店舗も閉店しているのは問題。フォローが必要ではないか。</li> <li>・現状の維持ではなく、この事業のゴールを明確にする必要がある。</li> <li>・空き店舗という発想ではなく、「空きスペースの有効利用」の視点で考えるべきではないか。</li> <li>・対象業種を拡大したり、新たに事務所も対象にしているのであれば経過をみつつ、現行どおり進めていけばよいのではと思う。出来れば、市民のニーズに沿った店舗が増える工夫があれば更に良いのではないかと考える。</li> </ul>
				拡大	1	0	1		
				縮小	0	1	1		
			現行どおり		1	8	9		
			廃止		0	1	1		
8	あつぎスポーツアカデミー推進事業補助金	スポーツ政策課	要改善	実施内容・実施方法	3	8	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あつぎスポーツアカデミーは、他のスポーツの裾野を広げるものとの違いを明確にする方がよいのではないかと考える。体協への補助金については、自立的にできる部分も多いのではないかと考える。</li> <li>・体協の事業を的確に評価する必要がある。事業の当事者(体協)、利用者、それ以外の市民の評価の目も必要ではないかと考える。近隣市比較も有効と考えられる。</li> <li>・幼少期からスポーツへ関わることで、体力向上にもつながりトップアスリートへの道も広がるのではないかと考える。</li> <li>・スポーツが苦手な人も参加できるような事業にしてほしい。</li> <li>・トップアスリート養成より、スポーツを通じたジュニアの心の健康を推進する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業自体は評価できる。指導者養成やスポーツ教室は民間のスポーツ団体やジムに依頼する方法も検討できるのではないかと考える。</li> <li>・トップアスリート育成は、県や他の団体をお願いしてもよいのではないかと考える。本来の目的はスポーツの普及・促進・育成であり、スポーツ人口拡大を主体に事業を行ってほしい。</li> <li>・今後もニーズの多様化が進む可能性があるため、障がい者スポーツも含め注力してほしい。</li> <li>・スポーツ意識向上の為の事業として実施し、その後は近隣のチーム等を紹介し展開していくことが望ましいと考える。トップアスリートの育成に関しては、遠征費など経済的な支援も必要だと考える。トップアスリートの育成は専門家に任せるべき。</li> <li>・トップアスリートを育成するなら、もっと予算が必要になると考える。中学生以降もサポートするべきだと思う。</li> </ul>
				拡大	1	7	8		
				縮小	0	3	3		
			現行どおり		0	10	10		
			廃止		0	0	0		